

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立東濃実業高等学校

1 学校教育目標	1 誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備えた創造性に富む実践的な人材を育成する。 2 社会や時代の変化に即して、地域と連携しながら、生徒が自主的・主体的に学ぶことができるよう活力ある学校を目指す。 3 将来、産業界の各分野で貢献できるような幅広い教養と専門分野の基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、生涯を通じて絶えず学習に努めることのできる資質を育てる。
2 現状の分析	○商業科及び生活産業科を併置する専門高校として、特色ある専門教育を実施し成果を上げている。特に、地域と連携した地域貢献活動やボランティア活動、また、挨拶・身だしなみやマナーといった「東実ブランド」が、地域の方々や中学生の間で評価されている。
3 学校の抱える課題	○「挨拶日本一」を目指して生徒会を中心に日々活動しているが、生徒の間に温度差がある。全校が一つとなり「挨拶日本一」を目指した活動を展開したい。 ○1年生から基礎学力の必要性を意識させ、各学年や各教科と連携を密にし、生徒に意識の向上を図りたい。
4 今年度の具体的な重点目標	1 基本的生活習慣が確立したいじめや差別をしない、人権意識の高い生徒を育てる。 2 自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路選択できる能力や態度を育てる。 3 あらゆる教育活動において生徒の可能性を引き出すことを意識し、個に応じた教科指導の充実を図る。

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
「生徒指導・ 人権教育」	①全校生徒と全職員による挨拶指導・遅刻防止指導、「身だしなみカード」等による指導を行い、生徒の意識を高めます。	①年間遅刻回数300回以下。生徒のマナーモラルに関する調査結果の肯定95%以上。	①挨拶指導、遅刻防止指導、カード指導は継続して取り組んでいる。遅刻は2月末で345件となり目標達成とはいかなかった。マナーやモラルは91%の生徒が肯定感を持っている。	B	○いじめに関するアンケートは担任が集計することで、生徒の様子を把握し、未然防止ができています。 ▲スタントマンによる交通安全教室は交通安全に対する意識をより高めた。しかしその後も自転車事故が発生しており、常日頃から注意が必要である。 ▲職員の共通理解を得て、一歩進んだ生徒指導ができるよう学校全体の意識を高めたい。	B
	②「あずさカード」を発行し、生徒一人一人の良さを認め、生徒が自信と誇りを持った学校生活を送れるようにします。	②年間で職員一人10枚以上の「あずさカード」を発行。	②2月末までに28名の先生が発行し、そのうち4名が10枚以上発行している。クラス内掲示を行うなど、みんなで認める環境が作れている。	B		
	③人権教育を充実し、人間尊重の気風がみなぎる学校づくりを推進します。	③生徒の意識に関するアンケート結果の肯定90%以上、及び生徒の変化。	③年間6回のいじめに関するアンケート、3回の生活意識調査を実施。11月の調査では100%の生徒がいじめを受けていないと答えた。毎回、調査結果を担当や部顧問などが把握し対応している。	A		
「進路指導」	①進路意識を早期に確立するために、ガイダンス機能を充実させます。	①進学ガイダンス、進路講話の実施回数年間10回以上。	①予定通りに進路講話やガイダンスを実施した。求人が増加し、少子化が進んでも厳しい就職先、進学先があることに留意した。	A	○ガイダンス機能は定着してきた。今後は1・2年生の取り組みを充実させたい。 ○生徒の進路希望をおおむね達成することができた。特に看護系希望者の合格率が例年より高かった。	
	②キャリア教育推進のため、校内連携と職員研修を充実させ、3年間を見通した計画的、組織的な指	②全職員で指導をし、生徒の進路希望100%の実現。	②学科や学年と連携して、生徒の進路意識向上を図った。面接指導や小論文指導に全職員で取り組むことができた。	B		

	導をします。 ③生徒自ら希望する進路を実現できるよう、確かな学力や専門的な知識、技能を身に付けるための指導を充実します。	③2年生及び3年前期・後期に進学補習を実施し、各生徒の進捗状況を確認。	③各教科と連携して、進学補習を計画的に実施した。また、生徒の進路希望の多様化に対応した個別指導を実施した。	B	▲学科の内容と関連性の低い分野への希望者が厳しい結果になった。1年生からの進路指導を充実させる必要がある。
「教務・専門教育」	①公開授業週間を中心に研究授業、授業研究会を積極的に実施し、教員の指導力向上を目指します。	①授業評価アンケートによる教員の授業評価、生徒の自己評価ともに80%以上満足。	①商業科、家庭科、英語科では会議時間を時間割に組み込むことで指導方針等調整しながら確実に教育効果を高めることができた。研究授業については9回実施した。	B	○各学科とも、外部活力を取り入れながら専門的な知識や技術を身に付けることができた。 ○中学生保護者の方々に授業参観していただいた結果、本校に入学させたいという声が多かった。 ▲国家試験や日商など難易度の高い資格取得者数が伸び悩んだ。
	②御嵩町役場や商工会議所、大学等と連携をとり、実践学習の機会を増やします。また、学習成果発表会を実施します。	②学習成果発表会後のアンケートによる生徒の満足度および地域・保護者の評価確認。	②御嵩町や大学・専門学校、地元の企業等と連携しながら活気のある授業を行うことができた。商業科においては開発した商品の海外販売を計画している。	A	
	③各小学科における基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、目標とする資格の取得に努めます。	③検定試験合格率について、1年生受験分90%以上、2・3年生受験分70%以上。	③知識・技術の定着を図ることができた。特に家庭科では、本年度、実技検定対策を通じて、忍耐力や段取り力が身に付き、新規でコンクールやコンテストに挑戦できた。	B	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月18日

<ul style="list-style-type: none"> この学校の活動を見ると、教師と生徒の意思の疎通が良くできているように思われる。生徒が教師の指導の意図をよく理解して行動している。また地域と密着した活動も大変実績を残している。生徒の成長も十分理解できた。 交通事故が心配である。特に自転車通学の指導について現状はどうか。 生徒の発表する姿が堂々として非常に感銘を受けた。学習活動を通して自信が身に付いている様子が実感できる。良い指導ができている証拠だと思った。 「働き方改革」の意義は理解できるが、十分な指導を行えば勤務時間の短縮は難しいのではないかと。現状での課題はどうか。 3年間の学習成果が凝縮された大変内容の濃い発表会であった。3年生の発表する姿が1・2年生の目標となっているようだ。家族や地域のサポートも大切だが、学校として今後も充実した指導を期待したい。 発表会を見て、学習成果の集大成として発表する生徒の姿に感動した。また熱心に指導する教師の姿勢を垣間見ることが出来た。 企業側から見ると今後は「IoT」などの新技術や「コンプライアンス」意識の育成も重要だとも考える。様々な場面で意識した指導をお願いしたい。 交通安全について通学途上の危険予知などの能力も必要と考える。安全安心の学校生活に向けて今後の課題として取り組んでほしい。 発表会を見て、発表する生徒の「見せる技術」が向上していることに驚いた。さらに学習を通して育んだ仲間意識の強さも実感できた。よい発表会だった。

12 来年度に向けての改善方策案

<ul style="list-style-type: none"> 刻々と変化する産業社会に対応すべく教育課程の見直しを行うとともに、教科書や補助教材についても資格取得に対応したものを積極的に導入する。また、専門教科においては、一部習熟度別のクラス編成を行うなど、一層きめ細かい指導体制を検討する。商業2学科においては、全商1級3種目や日商簿記検定2級の合格を実現できるように配慮する。生活文化科においては、授業内容のさらなる精選をすることで指導を充実させる工夫を行う。 専門科の高校として、早い時期から進路意識を持たせる工夫を充実させたい。各学科の特性を生かした進路実現に向けて、ガイダンス機能を強化する。具体的には、各学科との連携を密にしなが、進路講話や三者懇談の機会を利用する。 いじめ防止と命の大切さを機会あるごとに訴える。また、あずさカードを積極的に活用することで、互いを認め尊重し、思いやりの心が育つようにする。 交通安全講話、薬物乱用防止・防犯講話、自転車安全点検などを通じて、保護者を含め、交通安全に対する意識向上を図る。 職員間、学校間、地域の方々との連携を高め、生徒に地域の中で学ぶ意識を持たせたい。
--